

宗教学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
宗教学概論	人類における宗教の過去・現在・未来	2	山田 仁史	3	木	2	1	
宗教学概論	宗教と現代社会	2	木村 敏明	4	木	1	2	
宗教学基礎講読	宗教学の基礎理論	2	木村 敏明	3	金	3	3	
宗教学基礎講読	ウェスターマルク再読	2	山田 仁史	4	火	2	4	
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明・山田 仁史・高橋 原・谷山 洋三	3	金	5	5	
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明・山田 仁史・高橋 原・谷山 洋三	4	金	5	6	
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明・山田 仁史	3	月	4・5	7	
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明・山田 仁史	4	月	4・5	8	
宗教学各論	宗教と飲むこと・食 べる こと	2	山田 仁史	5	火	3	9	
宗教学各論	自然災害と宗教	2	木村 敏明	6	火	3	10	
宗教学各論	社会学年報学派の宗 教学思想	2	山崎 亮	集中(6)			11	
死生学各論	宗教心理学	2	高橋 原	5	水	3	12	対応科目なし
死生学各論	スピリチュアリティと死 生観	2	高橋 原	6	水	3	13	対応科目なし
死生学各論	死とともに生きることを 学ぶ	2	竹之内 裕文	集中(6)			14	対応科目なし
実践宗教学各論	実践宗教学試論～宗 教者によるケア実践	2	高橋 原・大村 哲夫	4	水	5	16	対応科目なし
実践宗教学各論	スピリチュアルケア	2	谷山 洋三	5	月	2	17	対応科目なし
実践宗教学各論	死生学文献講読	2	高橋 原・大村 哲夫	3	水	5	18	対応科目なし
実践宗教学各論	宗教的ケア	2	谷山 洋三	6	月	2	20	対応科目なし
宗教学講読	宗教人類学	2	Andrews Dale	5	火	3	21	
宗教学講読	宗教人類学	2	Andrews Dale	6	火	3	22	
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明・山田 仁史・高橋 原・谷山 洋三	5	金	5	23	
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明・山田 仁史・高橋 原・谷山 洋三	6	金	5	24	

宗教学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明.山田 仁史	5	月	4・5	25	
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明.山田 仁史	6	月	4・5	26	

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：山田 仁史 (准教授)

講義コード：LB34202, **科目ナンバリング：**LHM-RES201J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

人類における宗教の過去・現在・未来

2. Course Title (授業題目)：

Religion of the human kind: retrospect and prospect

3. 授業の目的と概要：

人類にとって宗教とは何か。進化、世界、日本、そして現在と未来、を通観します。

4. 学習の到達目標：

人類史における宗教の見取図を描けるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のように語ってゆきます。

- 1 はじめに：宗教をどうとらえるか
- 2 宗教の進化（1）人類史の時代区分
- 3 宗教の進化（2）起源と進化の諸仮説
- 4 宗教の進化（3）狩猟採集の時代
- 5 世界の宗教（1）根源の探究
- 6 世界の宗教（2）救済宗教の成立
- 7 世界の宗教（3）ユーラシア大陸の東西
- 8 日本の宗教（1）カミ観念の諸相
- 9 日本の宗教（2）宗教と倫理・道徳
- 10 日本の宗教（3）信仰心と宗教性
- 11 日本の宗教（4）創られた伝統
- 12 宗教の現在と未来（1）神話とアニミズム
- 13 宗教の現在と未来（2）四つの欲求と自己実現
- 14 宗教の現在と未来（3）3つのGと3つのR
- 15 おわりに：ロゴス、レンマ、はざま

6. 成績評価方法：

学期末レポート（講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%）および毎回のフィードバック（出欠確認を兼ねる。20%）により評価します。

7. 教科書および参考書：

なし。

8. 授業時間外学習：

レポート作成時にフィールドワークまたは文献調査をしっかりと行なってください。

9. その他：なし

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB44103, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教と現代社会

2. Course Title (授業題目)：

Religion and Modern Society

3. 授業の目的と概要：

この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。

4. 学習の到達目標：

現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。

宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 現代宗教の基礎理論 世俗化
3. 現代宗教の基礎理論 公共宗教
4. 現代宗教の基礎理論 民間信仰
5. 小括
6. 宗教と政治
7. 宗教と経済
8. 宗教と教育
9. 宗教と高齢化
10. 宗教と移民
11. 小括
12. 現代宗教学の最前線 神観念論
13. 現代宗教学の最前線 宗教集団論
14. 現代宗教学の最前線 儀礼論
15. まとめ

6. 成績評価方法：

毎回の授業後に提出する小レポート[40%]、期末のテスト[60%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』（櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015 年）をあげておく。

8. 授業時間外学習：

日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB35304, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教学の基礎理論

2. Course Title (授業題目)：

Basic theories of religious Studies

3. 授業の目的と概要：

この授業は宗教学の基礎的文献を読み、それをもとに討論を行うことで、宗教学の基本的理論と知識を身につけることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

宗教学の基本的理論を身につける

文献を正確に読み、それに基づいた議論を行うことができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のトピックに沿ってテキストの読解と討論をおこなう。

1. イントロダクション

2. 民間信仰

3. 民間信仰

4. 祖先崇拝

5. 祖先崇拝

6. シャマニズム

7. シャマニズム

8. 儀礼と祭り

9. 儀礼と祭り

10. 聖なるもの

11. 聖なるもの

12. 死生観

13. 死生観

14. 現代宗教

15. 現代宗教

6. 成績評価方法：

発表と授業への参加を総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。その他についてはイントロダクションで指示する。

A textbook will not be used.

8. 授業時間外学習：

全員が事前にテキストを熟読してくる。発表者は発表の準備が必要である。

Students should read text before class.

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：山田 仁史（准教授）

講義コード：LB42206, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

ウェスターマルク再読

2. Course Title (授業題目)：

Rereading Westermarck

3. 授業の目的と概要：

民族学者エドワード・ウェスターマルク（1862-1939）の古典的名著『人類婚姻史』を題材に、宗教的信仰や食文化、儀礼の社会的機能などのかかわりの中で、人類の性行動や婚姻のありかたを探ってゆきます。

4. 学習の到達目標：

人類文化の多様性と共通性を感じながら、英文を丁寧に読んで内容の理解を深めましょう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

“Primitive means of attraction” の章を読みすすめます。参加者による発表とディスカッションにより進行します。

6. 成績評価方法：

和訳の発表（50%）および議論への参加状況（50%）によって評価します。

7. 教科書および参考書：

Westermarck, Edward, The History of Human Marriage, 5th ed., 3 Vols., London: Macmillan, 1921. 入手方法は初回に指示します。

8. 授業時間外学習：

毎回、自分なりの訳を丁寧に作って参加してください。

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：木村 敏明, 山田 仁史, 高橋 原, 谷山 洋三 (教授、准教授、教授、准教授)

講義コード：LB35502, 科目ナンバリング：LHM-RES203J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方、班分け
2. 大学院生発表①理論的研究
3. 大学院生発表②実証的研究
4. 学部3年発表 1 班
5. 学部3年発表 2 班
6. 学部3年発表 3 班
7. 学部3年発表 4 班
8. 学部3年発表 5 班
9. 予備日：学部3年欠席者のため
10. 学部4年発表 1 班
11. 学部4年発表 2 班
12. 学部4年発表 3 班
13. 学部4年発表 4 班
14. 学部4年発表 5 班
15. 予備日：学部4年欠席者のため

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：木村 敏明, 山田 仁史, 高橋 原, 谷山 洋三（教授、准教授、教授、准教授）

講義コード：LB45502, 科目ナンバリング：LHM-RES203J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方、班分け

2. 学部3年発表 1 班

3. 学部3年発表 2 班

4. 学部3年発表 3 班

5. 学部3年発表 4 班

6. 学部3年発表 5 班

7. 予備日：学部3年欠席者のため

8. 学部4年発表 1 班

9. 学部4年発表 2 班

10. 学部4年発表 3 班

11. 学部4年発表 4 班

12. 学部4年発表 5 班

13. 予備日：学部4年欠席者のため

14. 学部2年発表 1 班

15. 学部2年発表 2 班

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明, 山田 仁史 (教授
准教授)

講義コード：LB31406, **科目ナンバリング：**LHM-RES204J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション
- 2. 第一回：宗教学におけるデータとは
- 3. 第二回：参与観察法
- 4. 第三回：インタビュー調査法
- 5. 第四回：質問紙調査法
- 6. 第五回：文献調査法・情報検索法
- 7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本
- 8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本
- 9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習
- 10. 第九回：調査と研究の倫理
- 11. 第十回：現地調査計画の立案
- 12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
- 13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
- 14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
- 15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時、後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明、山田 仁史（教授
准教授）

講義コード：LB41408, **科目ナンバリング：**LHM-RES204J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション 後期授業の概要
- 2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
- 3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
- 4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
- 5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
- 6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
- 7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
- 8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
- 9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
- 10. 第九回、前期調査成果発表
- 11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
- 12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
- 13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
- 14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
- 15. 第十四回、総括と反省

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

9. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：山田 仁史（准教授）

講義コード：LB52304, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教と飲むこと・食べること

2. Course Title (授業題目)：

Religion and food

3. 授業の目的と概要：

宗教は衣食住を含む人間の生活様式、すなわち文化一般と深いかかわりを持つ。この講義では、そのうち食との関係に焦点を当て、宗教民族学・宗教人類学の視点から様々なトピックを取り上げて語ってゆく。

4. 学習の到達目標：

(1) 宗教を、教義や歴史からではなく、人間の生活文化に根ざし、深くかかわるものとしてとらえる視点を養う。(2) 大宗教のみならず、人類諸社会の信仰形態の多様性を理解する。(3) 宗教民族学・宗教人類学における資料の性質と扱い方について、洞察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のように語ってゆきます。

- 1 はじめに：宗教と飲食
- 2 狩猟採集民の食と世界観
- 3 牧畜民の食と世界観
- 4 農耕民の食と世界観
- 5 水：この両義的なもの
- 6 火：神話・料理・シンボリズム
- 7 シャマニズムとベニテングタケ
- 8 ベテルとカヴァ
- 9 酒を飲むか飲まざるか
- 10 海の幸と山の幸：タブーと交流
- 11 カニバリズム：諸事実と諸理論
- 12 肉食と供犠
- 13 死者への／との食べ物
- 14 宗教的断食・世俗的拒食
- 15 おわりに：聖と俗、性と食

6. 成績評価方法：

学期末レポート（講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%）および毎回のフィードバック（出欠確認を兼ねる。20%）により評価します。

7. 教科書および参考書：

参考書：山田仁史『いかもの喰い：犬・土・人の食と信仰』亜紀書房、2017 年（入手は任意）。

8. 授業時間外学習：

レポート作成時にフィールドワークまたは文献調査をしっかりと行なってください。

9. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB62308, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

自然災害と宗教

2. Course Title (授業題目)：

Natural Disaster and Religion

3. 授業の目的と概要：

突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼的实践を概観しつつ、現代社会における宗教の意義や課題について論じるとともに、高度な宗教学的知見をもとに議論を行うことで問題の理解を深める。

4. 学習の到達目標：

宗教学的なものの見方をみにつけることができる。

現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 自然災害をめぐる観念：神話における災害
3. 自然災害をめぐる観念：「怪物」の表象
4. 自然災害をめぐる観念：諸宗教伝統の災害観
5. 自然災害をめぐる観念：災因論
6. 自然災害をめぐる観念：神義論の諸相
7. 小括
8. 自然災害をめぐる儀礼：予防儀礼と減災儀礼
9. 自然災害をめぐる儀礼：災禍の儀礼
10. 自然災害をめぐる儀礼：慰霊・追悼・記念の儀礼
11. 自然災害をめぐる儀礼：儀礼の復活とその意義
12. 小括
13. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタル
14. 復興と宗教：レジリエンス
15. まとめ

6. 成績評価方法：

毎回の授業後提出の小レポート{40%}、期末レポート[60%]

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

新聞や読書などで普段からトピックに関連した情報を収集するようにつとめ、授業後の小レポートに反映させる。

9. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：山崎 亮 (非常勤講師)

講義コード：LB98830, **科目ナンバリング：**LHM-RES301J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

社会学年報学派の宗教学思想

2. Course Title (授業題目)：

Thoughts of "science des religions" in the school of "l'Année sociologique"

3. 授業の目的と概要：

エミール・デュルケーム(1858-1917)は1898年に『社会学年報(l'Année sociologique)』を創刊するが、そこではとりわけ「宗教社会学(sociologie religieuse)」が重視され、アンリ・ユベール(1872-1927)やマルセル・モース(1872-1950)らとの共同作業のなかで、独自の宗教学思想が生成していく。この授業では、社会学年報学派の宗教研究を総体としてとらえる視点から、デュルケーム晩年の主著で宗教学の古典でもある『宗教生活の基本形態』(1912)の成立を

4. 学習の到達目標：

社会学年報学派の宗教学思想の展開を理解することを通じて、近代宗教学成立の意義とその限界を考察する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のようなトピックスを取り上げる予定である。

1. 背景となる近代宗教学成立期の概観と「宗教学思想」の観点

2. 『自殺論』(1897)から『基本形態』への移り行き——歴史的・強圧的社会観から共時的・弁証法的社会観へ、「世俗化」論から「自然的宗教」論へ

3. 社会学年報学派の宗教研究——デュルケーム、ユベール、モース、ロベール・エルツ

4. 学説批判——M. ミュラー、E. B. タイラー、J. G. フレーザー、A. ラング、W. シュミット、ロバートソン・スミス、L. レヴィ＝ブリュル、W. ジェームズ、I. カント etc.

5. システムとしての宗教——トーテミズムと「宗教生活の基本形態(formes élémentaires de la vie religieuse)」

6. 儀礼のメカニズム——供犠、聖俗転換、合一(communion)と沸騰(effervescence)

7. 呪術と宗教——個人的なるものと社会的なるもの、マナ、非人格的な宗教的力、集合的力

8. 具体的な宗教現象との関連——聖俗観念、浄・不浄観念、靈魂観、禁忌、祝祭 etc.

9. 社会学的認識論——カテゴリー、分類体系、因果律、科学的思考と宗教的思考の連続性

10. 「人間科学(science de l'homme)」としての宗教学——宗教の「活力発生的(dynamogénique)」機能の発見と「人間本性の二元性」

11. 日本における受容と展開——古野清人訳『宗教生活の原初形態』の功罪、「社会学者デュルケーム」の呪縛

6. 成績評価方法：

授業後提出するレポートによる。

7. 教科書および参考書：

基本的な参考書として、山崎亮『デュルケーム宗教学思想の研究』(未来社、2001)とエミール・デュルケーム(山崎亮訳)『宗教生活の基本形態——オーストラリアにおけるトーテム体系』上下(ちくま学芸文庫、2014)を挙げておく。

8. 授業時間外学習：

事前に、近代宗教学成立期に関する一般的な知識を習得・整理しておくことが望ましい。

9. その他：なし

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：高橋 原 (教授)

講義コード：LB53304, **科目ナンバリング：**LHM-RES307J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

宗教心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of Religion

3. 授業の目的と概要：

W・ジェイムズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な心理学者たちの議論を踏まえて、トランスパーソナル心理学などへの展開も視野に収める。また、キリスト教世界における回心体験やエクソシズム、吉本内観など日本の宗教的心理療法の事例をとりあげながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。

4. 学習の到達目標：

心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、宗教が人間心理に及ぼす影響を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション 人間の心と宗教
- 第2回：回心と意識変容(1) 近代アメリカの宗教事情と初期の回心研究
- 第3回：初期の日本の宗教学と回心研究
- 第4回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1) 健全な心と病める魂
- 第5回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2) 潜在意識仮説とブラグマティズム
- 第6回：フロイトの宗教論(1) 前史：メスメリズムと催眠術
- 第7回：フロイトの宗教論(2) 抑圧理論と宗教論
- 第8回：悪魔祓と原始的な心理療法について
- 第9回：ユングの宗教論(1) コンプレックスと連想実験
- 第10回：ユングの宗教論(2) イメージとヴィジョン
- 第11回：ユングの宗教論(3) 神話と意識の進化
- 第12回：トランスパーソナル心理学と宗教(1) ライフサイクル論と宗教意識
- 第13回：トランスパーソナル心理学と宗教(2) 意識変容と宗教
- 第14回：宗教から心理療法へ 吉本内観を例に
- 第15回：論点振り返り 人間心理と宗教体験

以上の大筋に添って、死生学的観点から考察を加える。

6. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

特に指定しない。

8. 授業時間外学習：

配布資料を熟読し、理解を深める。

9. その他：なし

毎回授業内で課題を出すのでミニットペーパーで回答すること。

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：高橋 原（教授）

講義コード：LB63310, **科目ナンバリング：**LHM-RES307J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

スピリチュアリティと死生観

2. Course Title (授業題目)：

Spirituality and View of Death and Life

3. 授業の目的と概要：

世界保健機関における健康定義の議論や、鈴木大拙、C・G・ユング、キューブラ＝ロスなどを参考に、医学や心理学の領域で蓄積されてきた死生観とスピリチュアリティについての多様な見解を紹介しながら考察する。具体的な事象への応用としては、お迎え現象、臨死体験、修行の心理などの他、遠藤周作やル＝グウィンなどの文学作品を取り上げて検討する。

4. 学習の到達目標：

スピリチュアリティと宗教という視点から、人間の生と死について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション スピリチュアリティとは何か

第2回：宗教とスピリチュアリティ

第3回：世界保健機関の健康定義とスピリチュアリティ

第4回：鈴木大拙『日本的霊性』とスピリチュアリティ

第5回：C・G・ユングとスピリチュアリティ

第6回：キューブラ＝ロスの臨死体験論とスピリチュアリティ

第7回：チベット死者の書とスピリチュアリティ

第8回：お迎え現象と日本人のスピリチュアリティ

第9回：心霊現象とスピリチュアリティ

第10回：修行とスピリチュアリティ

第11回：近代日本の知識人とスピリチュアリティ(1)明治期

第12回：近代日本の知識人とスピリチュアリティ(2)大正期

第13回：文学作品に見るスピリチュアリティ(1)遠藤周作

第14回：文学作品に見るスピリチュアリティ(2)ル＝グウィン

第15回：論点振り返り スピリチュアリティと現代

6. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーと期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

窪寺敏之『スピリチュアリティ学概説』三輪書店、2008年、他、適宜授業内で指示する。

8. 授業時間外学習：

テキスト、配布資料を熟読する。

9. その他：なし

毎回授業内で課題を与えるのでミニットペーパーにより回答すること。

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：竹之内 裕文（非常勤講師）

講義コード：LB98831, **科目ナンバリング：**LHM-RES307J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

死とともに生きることを学ぶ

2. Course Title (授業題目)：

cultivating wisdom of mortal human life

3. 授業の目的と概要：

なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援ア、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

4. 学習の到達目標：

死生学の基本概念を学び、現代生活における生と死の問題について理解を深める。

①対話スタイルで進められる講義を通して、対話的探究の楽しさと可能性を身をもって学び、対話の精神と技法を習得する。

②テキストや他の受講者との対話を通して、死とともに生きる自分なりの知恵を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、導入としてのもしバナゲーム
- 2) テキストをめぐる対話① ある死別の経験から（序章）
- 3) テキストをめぐる対話② 重度障害者自立ホームから（第1章）
- 4) 死生学カフェ①
- 5) テキストをめぐる対話③ 在宅緩和ケアの現場から（第2章）
- 6) テキストをめぐる対話④ 死者と共にある農村との出会い（第3章）
- 7) テキストをめぐる対話⑤ いのちに気づかって生き、死ぬ（第4章）
- 8) 死生学カフェ②
- 9) テキストをめぐる対話⑥ 共に生きること、本当に生きること（第5章）
- 10) テキストをめぐる対話⑦ 森と湖の国の「福祉」（第6章）
- 11) テキストをめぐる対話⑧ ホスピス運動の源流を辿る（第7章）
- 12) 死生学カフェ③
- 13) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話（終章）
- 14) 死生学カフェ④
- 15) 死生学カフェ⑤

6. 成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. 「テキストをめぐる対話」（全8回）の準備作業として、受講者は各回の講義冒頭にフィードバックシート（テキスト各章の要旨、着眼・疑問・意見、希望する対話テーマを記載する）を提出します。これをすべて遺漏なく提出すると、10点満点×8回＝80点のポイントを獲得します。

2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり5点を加算します。

7. 教科書および参考書：

竹之内裕文『死とともに生きることを学ぶ 死すべきものの哲学をもとめて』（ポラーノ出版、2019年6月刊行予定）をテキストとして使用します。

8. 授業時間外学習：

講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。

9. その他：なし

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェについては次の URL を参照ください。<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：高橋 原, 大村 哲夫 (教授
准教授)

講義コード：LB43503, **科目ナンバリング：**LHM-RES308J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

実践宗教学試論～宗教者によるケア実践

2. Course Title (授業題目)：

Practice of care by religious professionals

3. 授業の目的と概要：

宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者を招く回があります。
各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師の理念
2. グリーフケアと宗教
3. カフェ・デ・モンク (宗教者による被災地支援の実情)
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

6. 成績評価方法：

出席回数、毎回提出のミニットペーパーの内容による。

7. 教科書および参考書：

特に指定しないが授業内で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献等で学習を深める。

9. その他：なし

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三 (准教授)

講義コード：LB51205, **科目ナンバリング：**LHM-RES308J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

スピリチュアルケア

2. Course Title (授業題目)：

Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

窪寺俊之、村田久之、山崎章郎、伊藤高章などの理論に触れつつ、国内でのスピリチュアルケア理解とその多様性、課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。

4. 学習の到達目標：

公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：チャプレンとビハラー僧

第3回：「臨床宗教師」の誕生

第4回：生活の中にある心のケア

第5回：スピリチュアルペイン

第6回：スピリチュアルな探求

第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア

第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア

第9回：宗教的資源の活用

第10回：宗教的ケア

第11回：臨床宗教師の可能性

第12回：臨床宗教師の資質

第13回：ワークショップ「死の体験」

第14回：ワークショップ振り返り

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、平常点・討論への参加等[50%]

7. 教科書および参考書：

教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

参考書：鎌田東二編『講座スピリチュアル学第1巻』ビーイング・ネット・プレス、2014年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：高橋 原

大村 哲夫（教授

准教授）

講義コード：LB53504, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

死生学文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Readings

Reading of Literature on Death and Life Studies

3. 授業の目的と概要：

グリーフケアに関する文献を読み、現代人の生活の諸局面に現われる悲嘆とそのケアの方法と問題点について基礎的な知識を得る。

4. 学習の到達目標：

悲嘆を抱える人々に対してどのような方法で接することがケアという観点から有効であるのか、事例を踏まえて理解する。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

- (1) イントロダクション グリーフケアとは何か？
- (2) 実践編 1 災害時のグリーフケア
- (3) 実践編 2 遺族会とグリーフケア
- (4) 実践編 3 日本社会の伝統的なグリーフケア
- (5) 理論編 1 グリーフケアの基盤としてのスピリチュアルケア
- (6) 理論編 2 臨床心理学における悲嘆
- (7) 理論編 3 グリーフケア研究の動向
- (8) 人材養成編 1 グリーフケア提供者を目指す人たち
- (9) 人材養成編 2 臨床宗教師の養成
- (10) グリーフケアと宗教 1
- (11) グリーフケアと宗教 2
- (12) グリーフケアと宗教 3
- (13) グリーフケアと宗教 4
- (14) グリーフケアと宗教 5
- (15) まとめと展望

6. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、授業への参加態度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

高木慶子編『グリーフケア入門』勁草書房 2012

8. 授業時間外学習：

テキストの指定範囲を授業前に熟読し、自分の考えをまとめておく。

9. その他：なし

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三 (准教授)

講義コード：LB61208, **科目ナンバリング：**LHM-RES308J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

宗教的ケア

2. Course Title (授業題目)：

Religious Care

3. 授業の目的と概要：

臨床宗教師のモデルである欧米のチャプレン制度とその源泉となる思想を概観し、軍隊、刑務所、学校、病院などでの実践とその意義を考察する。国内での臨床宗教師の活動、寺社教会での宗教的資源を活用したケアの可能性も検討する。また、体験的ワークによりケア実態の理解を深める。

4. 学習の到達目標：

臨床宗教師が提供する宗教的ケアについて、その理念と方法を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：スピリチュアルケアの歴史

第3回：宗教、哲学、心理学の視点

第4回：社会学、健康学の視点

第5回：ペインとケア

第6回：ケアの方法

第7回：ケーススタディ

第8回：ケア提供者の資質

第9回：欧米のチャプレン制度（1）軍隊

第10回：欧米のチャプレン制度（2）病院

第11回：欧米のチャプレン制度（3）刑務所、学校

第12回：日本での宗教的ケアの可能性

第13回：ワークショップ「ペットロスと読経」

第14回：ワークショップ振り返り

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、平常点・討論への参加等[50%]

7. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店、2008 年

参考書：葛西健太ほか編『ケアとしての宗教』明石書店、2013 年

谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

実践宗教学各論 I を履修済みであることが望ましい。

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：Andrews Dale (非常勤講師)

講義コード：LB52309, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教人類学

2. Course Title (授業題目)：

The Anthropology of Religion

3. 授業の目的と概要：

The purpose of this course is for students to understand the study of religion. In particular, students will focus on the field of Religious Anthropology, learning about the scholars and theories that have impacted our understanding of the world's religio

4. 学習の到達目標：

After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to explain various t

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Before class, students will need to read the assigned readings, looking up the definitions of unknown vocabulary and writing them down in a personal notebook. Students will make summaries individually or in groups. In class, students will present their summaries. In small groups and as a whole class, students will participate in a discussion of material based on the textbook. After class, students will review what they have discussed and learned in class. First week: Class guidance. Weeks 2-5: Theories and Controversies. Weeks 6-8: The Body as Symbol. Weeks: 9-11: Maintaining and Transforming Boundaries. Weeks: 12-14: Sex, Gender, and the Sacred. Week 15: Review of the semester's readings and discussions.

6. 成績評価方法：

Group discussion (50%), summaries (25%), vocabulary notebooks (25%)

7. 教科書および参考書：

Text: "The Anthropology of Religion", Author: Fiona Bowie, Publisher: Blackwell Publishers, Date: 2000.

8. 授業時間外学習：

Reading the text is a major part of preparing for class. Summaries of the readings will be prepared individually or in groups outside of class. Groups will assemble separately to perform group assignments.

9. その他：なし

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：Andrews Dale (非常勤講師)

講義コード：LB62309, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教人類学

2. Course Title (授業題目)：

The Anthropology of Religion

3. 授業の目的と概要：

The purpose of this course is for students to understand the study of religion. In particular, students will focus on the field of Religious Anthropology, learning about the scholars and theories that have impacted our understanding of the world's religio

4. 学習の到達目標：

After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to explain various t

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Before class, students will need to read the assigned readings, looking up the definitions of unknown vocabulary and writing them down in a personal notebook. Students will make summaries individually or in groups. In class, students will present their summaries. In small groups and as a whole class, students will participate in a discussion of material based on the textbook. After class, students will review what they have discussed and learned in class. First week: Class guidance. Weeks 2-5: Religion, Culture, and Environment. Weeks 6-8: Ritual Theory, Rites of Passage, and Ritual Violence. Weeks: 9-11: Shamanism. Weeks: 12-14: Witchcraft and the Evil Eye. Week 15: Review of the semester's readings and discussions.

6. 成績評価方法：

Group discussion (50%), summaries (25%), vocabulary notebooks (25%)

7. 教科書および参考書：

Text: "The Anthropology of Religion", Author: Fiona Bowie, Publisher: Blackwell Publishers, Date: 2000.

8. 授業時間外学習：

Reading the text is a major part of preparing for class. Summaries of the readings will be prepared individually or in groups outside of class. Groups will assemble separately to perform group assignments. Vocabulary will be written down in notebooks; th

9. その他：なし

This class continues reading the text introduced in the first semester.

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：木村 敏明, 山田 仁史, 高橋 原, 谷山 洋三 (教授、准教授、教授、准教授)

講義コード：LB55503, 科目ナンバリング：LHM-RES304J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方、班分け
2. 大学院生発表①理論的研究
3. 大学院生発表②実証的研究
4. 学部3年発表 1 班
5. 学部3年発表 2 班
6. 学部3年発表 3 班
7. 学部3年発表 4 班
8. 学部3年発表 5 班
9. 予備日：学部3年欠席者のため
10. 学部4年発表 1 班
11. 学部4年発表 2 班
12. 学部4年発表 3 班
13. 学部4年発表 4 班
14. 学部4年発表 5 班
15. 予備日：学部4年欠席者のため

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：木村 敏明, 山田 仁史, 高橋 原, 谷山 洋三 (教授、准教授、教授、准教授)

講義コード：LB65503, 科目ナンバリング：LHM-RES304J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方、班分け
2. 学部3年発表 1 班
3. 学部3年発表 2 班
4. 学部3年発表 3 班
5. 学部3年発表 4 班
6. 学部3年発表 5 班
7. 予備日：学部3年欠席者のため
8. 学部4年発表 1 班
9. 学部4年発表 2 班
10. 学部4年発表 3 班
11. 学部4年発表 4 班
12. 学部4年発表 5 班
13. 予備日：学部4年欠席者のため
14. 学部2年発表 1 班
15. 学部2年発表 2 班

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明, 山田 仁史 (教授
准教授)

講義コード：LB51406, **科目ナンバリング：**LHM-RES306J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション
- 2. 第一回：民間信仰の基礎 社会組織と講
- 3. 第二回：民間信仰の基礎 年中行事①
- 4. 第三回：民間信仰の基礎 年中行事②
- 5. 第四回：民間信仰の基礎 人生儀礼①
- 6. 第五回：民間信仰の基礎 人生儀礼②
- 7. 第六回：民間信仰の基礎 神社と寺院
- 8. 第七回：民間信仰の基礎 民話と伝説
- 9. 第八回：民間信仰の基礎 民間信仰の現在
- 10. 第九回：調査と研究の倫理
- 11. 第十回：現地調査計画の立案
- 12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
- 13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
- 14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
- 15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

9. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時、後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明、山田 仁史（教授
准教授）

講義コード：LB61405, **科目ナンバリング：**LHM-RES306J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

9. その他：なし